

城西病院 DMAT が茨城県総合防災訓練に初参加 災害現場で負傷者手当てに

茨城県・鹿嶋市総合防災訓練が8月11日、カシマサッカースタジアム周辺を会場に、約2000人が参加して行われました。城西病院では、永島覚一医師ら5人のDMAT（災害派遣医療チーム）が出動し、この訓練に初めて参加しました。

訓練は、午前9時31分に千葉県房総沖でM7.7の地震が発生したとの想定でスタート。鹿嶋市は震度6強の揺れに見舞われ、甚大な被害が出たとの想定で、消防や警察、自衛隊などが救出などの初期活動に当たり、防災ヘリコプターも出動し、建物屋上などから被災者を救助するなど、真に迫った訓練が行われました。

DMATは、県内各地から参加し、カシマスポーツセンターに設置された災害拠点病院に参集。本部を立ち上げ、情報収集や活動の振り分けなどを行いました。

城西病院DMATは、当初は災害拠点病院の受け入れや再トリアージ、治療などを担当。午前10時ごろにカシマサッカースタジアムが崩落し、多数のけが人が出たとの設定で、この現場に向かうことになりました。

城西DMATなど3チームは、サッカースタジアムわきに設置された応急テントで活動をスタート。消防や自衛隊が搬送してきた負傷者をテント内に収容。医師と看護師で手当てに当たる一方、事務調整員は刻々と運び込まれる傷病者の状況をかき出し、本部と連絡。負傷の程度に合わせて病院などへの搬送を行いました。

訓練は、事前に細かな打ち合わせもなく、災害現場のようにぶっつけ本番で行われました。連絡調整がスムーズにいかないなどの課題は残りましたが、参加したDMATが一丸となり、それぞれの役割を十分に果たし協力して、訓練を終えました。

平成30年8月13日

